



城南家保ニュースR6. 臨時号

熊本県城南家畜保健衛生所

〒868-0056 人吉市蟹作町 1237-1

TEL : 0966-22-3814

E-mail : jounankaho@pref.kumamoto.lg.jp

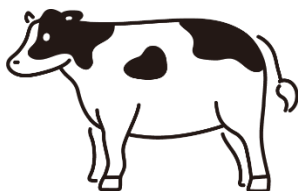


韓国で口蹄疫が発生しました！

令和7年（2025年）3月14日、韓国の全羅南道霊岩郡の肉牛農場（韓牛、約180頭）で口蹄疫の発生が確認されました。韓国においては、ワクチンによる口蹄疫の発生予防が講じられていたところですが、今回の発生は令和5年（2023年）5月以来となります。韓国ではその後も発生が続いており、3月16日時点で5件の発生が確認されています。

また、中国でも今年に入って2件の発生が確認されています。

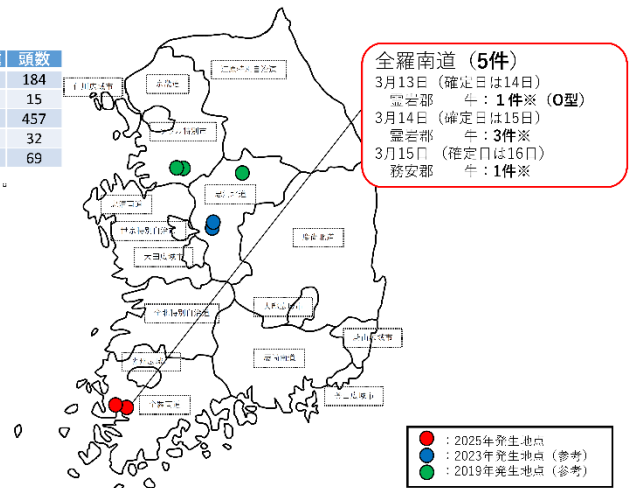
我が国と地理的に近く人的交流も多い国での発生であること、また昨年度以降、熊本空港へ韓国定期便が就航していることから、本国への侵入リスクが高まっていますので発生予防対策について農家指導をよろしくお願いします。



韓国における口蹄疫の発生報告状況（2025年3月以降）

発生日	場所	動物種	頭数
1 '25/3/13	全南 霊岩郡	牛	184
2 '25/3/14	全南 霊岩郡	牛	15
3* '25/3/14	全南 霊岩郡	牛	457
4 '25/3/14	全南 霊岩郡	牛	32
5 '25/3/15	全南 務安郡	牛	69

*関連農場2農場（いずれも検査陽性）あり。



注：日付はWOAH報告の発生日
 ただし、WOAH未報告の場合は韓国当局公表日（疑い又は確定）とし、件数の後に※マークを記載
 頭数は当該農場で飼養されている感受性動物数

2025年3月16日時点
 豚科水産畜動物衛生課

出典：韓国農林畜産食品部、WOAH、報道情報

中国における口蹄疫の発生報告状況(2019年1月以降)

【新疆ウイグル自治区】
 2019年 3月17日（O型）牛
 2019年 3月26日（O型）牛
 2019年 5月19日（O型）牛
 2019年 7月13日（O型）牛
 2019年12月30日（O型）牛
 2023年 4月11日（O型）牛
 2023年 5月10日（O型）牛
 2024年10月15日（O型）牛
 2025年 2月24日（O型）牛
 2025年 3月7日（血清型不明）牛（※）
 （※）場所は確定診断場所
 日付は当局公表日 WAHIS 未掲載

【内蒙古自治区】
 2019年2月13日（O型）牛
 2024年9月23日（O型）牛

【青海省】
 2021年10月27日（O型）ヤク

2025年3月8日現在

※ 出典：WOAH WAHIS (World Animal Health Information System) 等
 ※ 日付は発生日

【重慶市】
 2020年5月21日（O型）牛
 2020年11月9日（O型）豚
 2023年12月7日（O型）豚

【広東省】
 2021年3月16日（O型）豚

【広西チワン族自治区】
 2022年5月23日（O型）豚
 2023年3月23日（O型）水牛
 2024年10月29日（O型）豚

管内で気腫疽の発生がありました。

気腫疽（きしゅそ）とは

気腫疽菌（*Clostridium chauvoei*）による急性熱性の感染症で、牛や羊などの家畜に発生し、届出伝染病に指定されています。高致死率で、発症すると1～2日で死亡します。

【症状】

急死、突然の高熱、元気消失、食欲廃絶、反芻停止、四肢の腫脹や跛行（腫れた部位はガスが溜まり、プチプチと音がすることがある）、呼吸困難や頻脈などが認められます。

【原因】

気腫疽菌は、土壌や環境中に存在する土壌菌の一種で、芽胞という殻を作り長期間生存します。気腫疽菌に汚染された飼料や飲み水の経口摂取もしくは環境中から創傷部に侵入することによって発症します。

【予防・治療】

- ・不活化ワクチン接種による予防（推奨）
- ・給与飼料や飼育環境の改善、消毒
- ・有効な治療方法はありません



気腫疽で死亡した牛

【給与飼料に関する注意点】

- ・粗飼料の刈り取りの際には土壌を巻き込まないように心がけましょう。
- ・サイレージを作る際には確実に乳酸発酵させ、気腫疽菌が増殖した可能性がある腐敗した粗飼料は給与しないように注意しましょう。

ランピースキン病について

令和6年11月6日に我が国で初めてランピースキン病（LSD）の発生が確認され、11月21日から福岡県でLSDワクチン接種が開始されたことにより、12月19日に米国がワクチン接種を行った都道府県由来の牛肉の輸入を停止していました。しかし、令和7年3月4日、米国がワクチン接種による牛肉の輸入制限撤廃に合意し、3月19日から輸出が全面再開されることになりましたのでお知らせします。

一方、これから春を迎えるにあたり、本病を媒介する吸血昆虫が増加します。吸血昆虫の中でも個体数や吸血頻度が多いサシバエ対策は特に重要です。成虫対策だけでなく、さなぎや幼虫、卵への対策も優先的にしっかりと願います。

